

病害虫発生予察情報予報第 7 号（11 月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
コムギ	シロトビムシ類	並	
	1. シロトビムシ類 常発圃場では、クルーザーFS30の塗抹処理、またはアドマイヤー水和剤の種子乾粉衣とキヒゲンR-2フロアブルの塗抹処理を併せて行うことにより防除を行う。		
麦類全般	1. 種子伝染性病害（オオムギ網斑病、麦類黒穂病等） 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する。特に、網斑病は汚染種子と被害残渣が重要な伝染源となるため、昨年発生した圃場では確実に種子消毒を行う。		
大豆	1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。		
野菜共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ)	並	 シロイチモジヨトウ
	圃場観察で早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）は見つけ次第除去し、適切に処分する。また、幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢期に防除を行う。		
タマネギ	べと病	並	 ネギアザミウマ
	ボトリチス葉枯症	並	
	ネギアザミウマ	やや多	
	1. べと病 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。本圃の準備は時間に余裕をもって行い、適期に定植する。本圃での発生を抑えるために、育苗期および定植前後の薬剤防除を確実に実施する。		
	2. 乾腐病 前年に発生した圃場など、発生のおそれがある本圃に植え付ける場合、地床育苗の苗は定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。		
イチゴ (本圃)	うどんこ病	並	 ハダニ類
	ハダニ類	やや多	
	アブラムシ類	並	

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
	1. ハダニ類 早期発見・早期防除に努める。薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。天敵を利用する圃場では、天敵への影響が少ない薬剤を用いてハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する。		
キュウリ	べと病	やや多	 黄化えそ病
	うどんこ病	やや少	
	褐斑病	多	
	アザミウマ類	多	
	コナジラミ類	多	
	1. 褐斑病 発病が多くなってからでは防除が困難となるので、発生初期から予防散布を徹底するとともに、下葉の老化葉や被害葉は伝染源となるので、圃場外に持ち出して処分するなど圃場衛生に努める。発病が多かった圃場では、使用した資材等に胞子が付着して次作の伝染源となるため、ハウス内と資材の消毒を行う。 2. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 アザミウマ類、コナジラミ類ともに発生が多い。ウイルス病罹病株を認めた場合は、早急に除去し、適切に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、植替え時は、次作での発生を防ぐため、キルパー等を用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、18日以上（地温15℃の場合）空けてから定植する。		
トマト	コナジラミ類	多	 コナジラミ類
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 コナジラミ類の発生が多い。今後のコナジラミ類の多発とウイルス病の発生を防止するため、侵入防止対策と初期からの防除を徹底する。ウイルス病罹病株を認めた場合は、早期に除去し、適切に処分する。		
キャベツ	菌核病	並	 キャベツ菌核病
	黒腐病	並	
	アブラムシ類	やや多	
	1. 菌核病 発病してからでは防除が困難となるので、結球開始から予防的に薬剤防除を実施する。薬剤は株元に十分かかるように散布する。		
キク	白さび病	並	 ハダニ類
	アザミウマ類	やや多	
	アブラムシ類	並	
	ハダニ類	やや多	

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
	ハモグリバエ類	並	
	チョウ目害虫	並	
	1. ハダニ類・アザミウマ類 一部圃場で発生を認めている。多発してからでは防除が困難となるため、早期発見に努め、低密度時からの薬剤防除を徹底する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

QRコード→



Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「佐賀県病害虫総合防除計画」をご参照ください（3 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。

11 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 11 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 7 年 10 月 23 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 11 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	30 (13.3℃)	60	高い
降水量	30	40 (89.4 mm)	30	並

Ⅲ. 11 月の予報

コムギ

[【概要に戻る】](#)

1. シロトビムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 令和7年産コムギでの発生状況（図1参照）

発生圃場率：0%（平年2.3%、令和7年産0%）

平年比：やや少（－～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 播種時期が遅くならないよう、適期播種に努める。

(2) 被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。

(3) 被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。

(4) 常発圃場では、クルーザーFS30の塗抹処理、またはアドマイヤー水和剤の種子乾粉衣とキヒゲンR-2フロアブルの塗抹処理を併せて行うことにより防除を行う。

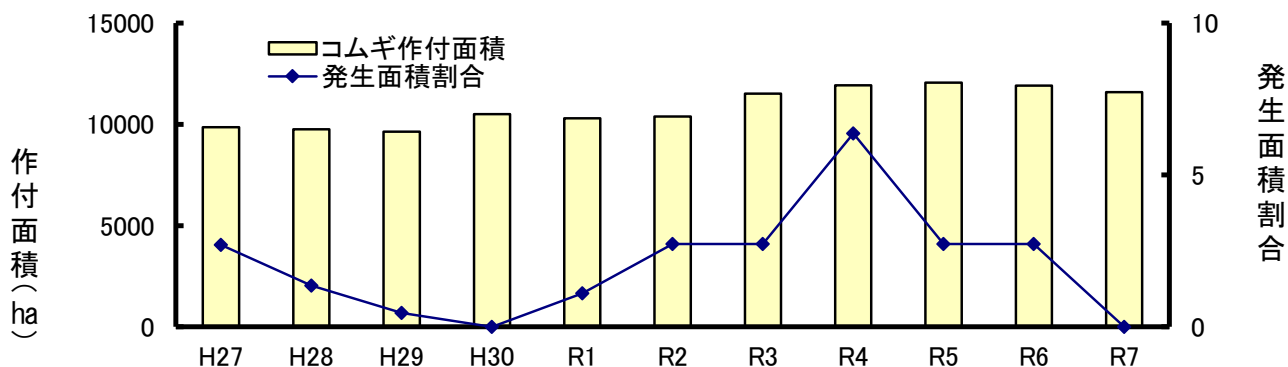


図1 コムギにおけるシロトビムシ類の発生面積割合の推移

野菜共通

[【概要に戻る】](#)

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1～2参照）

作物名	食害株率(%)	平年比	平年値(%)	前年値(%)
イチゴ	7.0	やや少〈－～±〉	11.6	26.5
キャベツ	36.3	やや少〈－～±〉	46.0	31.9

② フェロモントラップ（図3～5参照）

ハスモンヨトウの10月の誘殺数は、平年並で推移している（図3）〈±〉

オオタバコガの10月の誘殺数は、平年並で推移している（図4）〈±〉

シロイチモジヨトウの10月の誘殺数は、平年よりやや多く推移している（図5）〈±～＋〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- (2) 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢期に防除を行う。

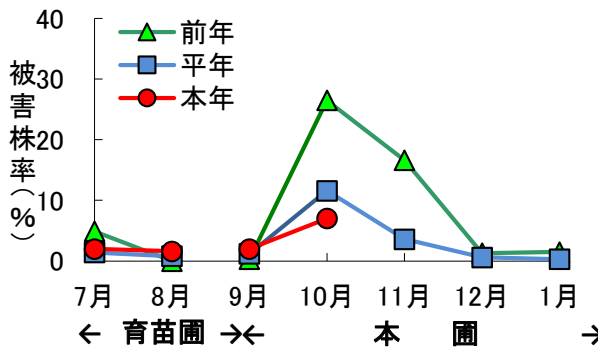


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

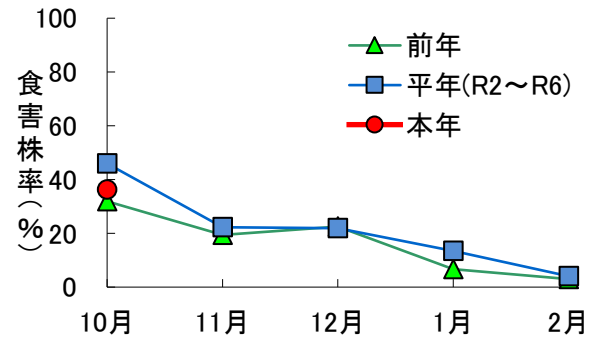


図2 チョウ目害虫によるキャベツの被害株率の推移

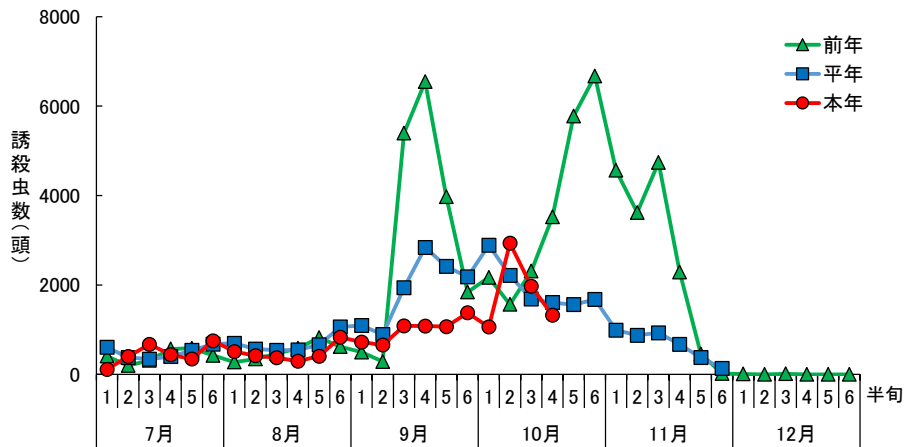
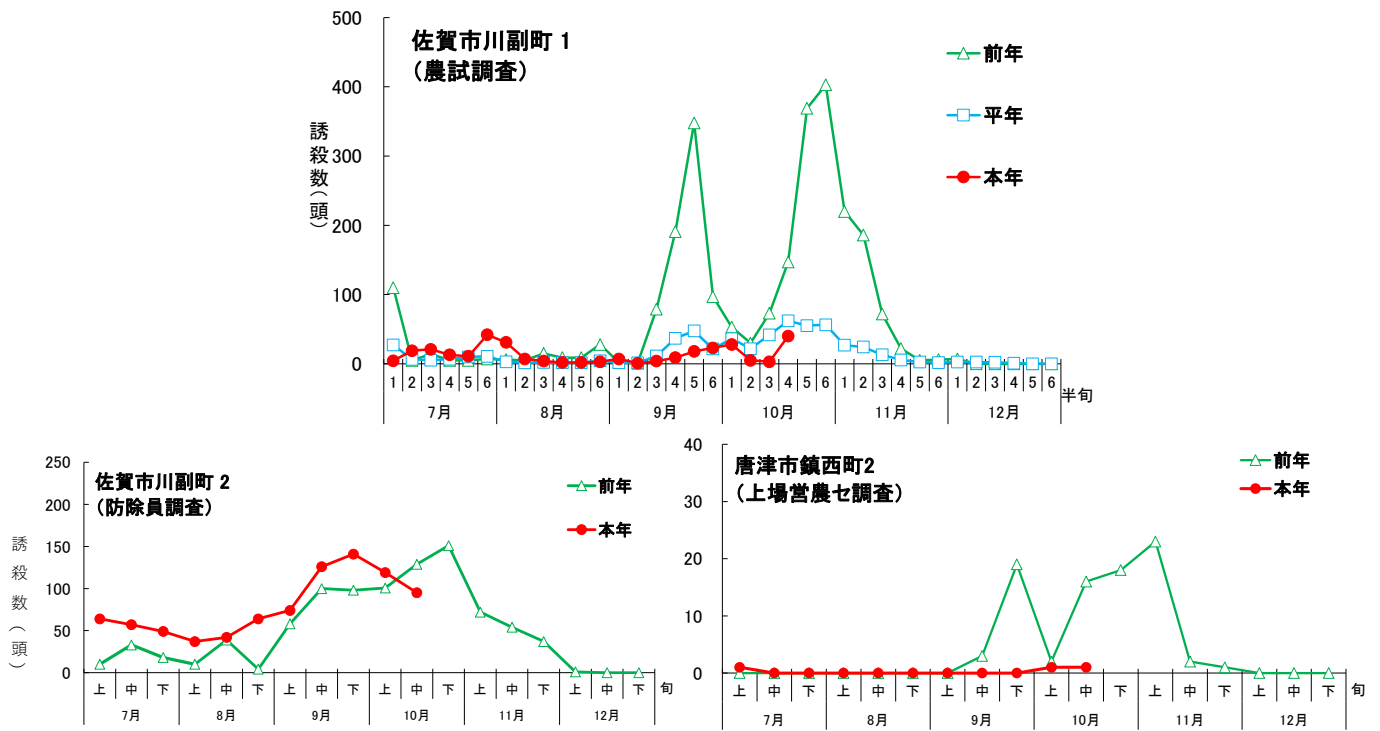


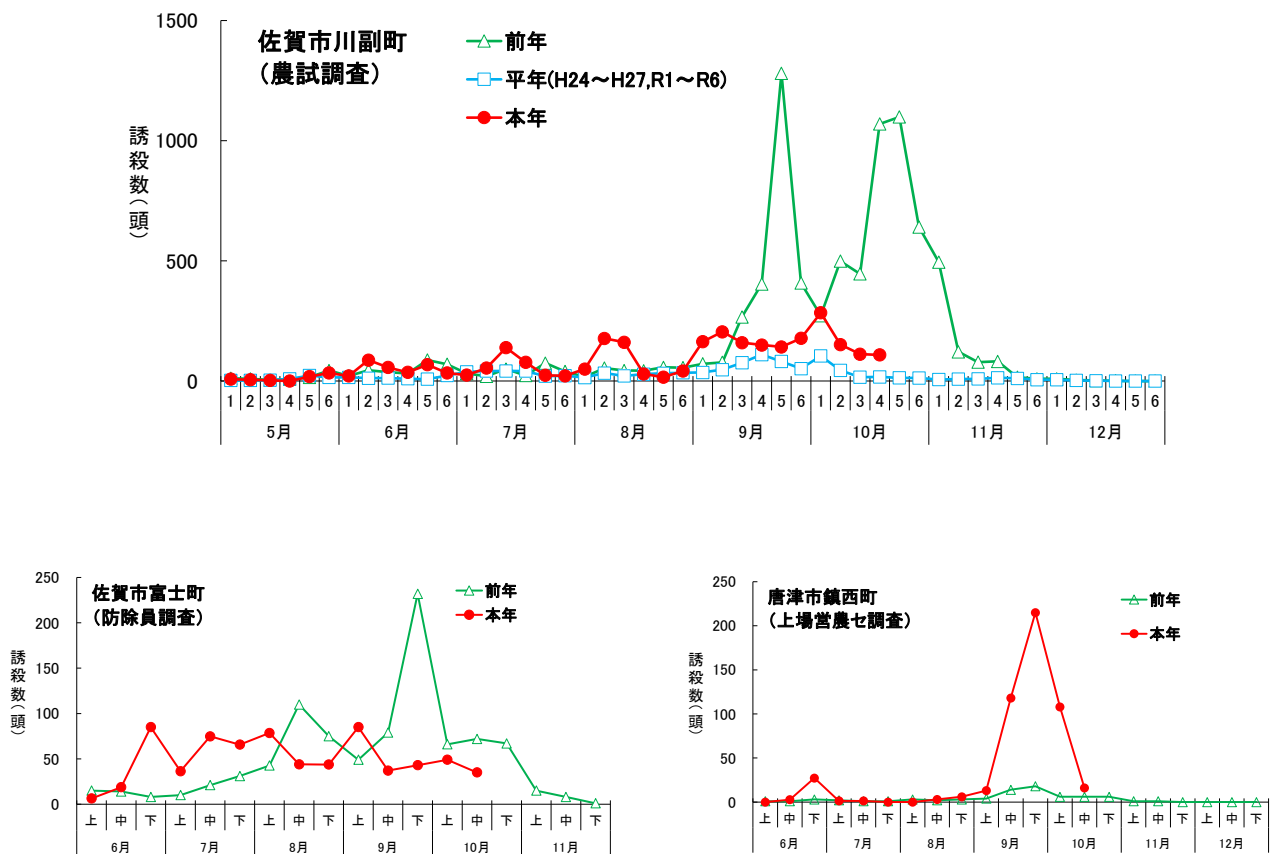
図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺数
(農業試験研究センター内設置の2トラップの平均値)



※2021 年から調査を開始したため、平年値はない。

※2024 年から調査を開始したため、平年値はない。

図4 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数



※2023 年から調査を開始したため、平年値はない。

※2024 年から調査を開始したため、平年値はない。

図5 フェロモントラップによるシロイチモジトウの誘殺数

タマネギ

定期調査 16 育苗圃場

調査日：10月20日

[【概要に戻る】](#)

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並

(11月に発病することはまれだが、苗床あるいは本圃で感染するリスクがある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (苗床)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度 (本圃)

平成25年以降、発生株率・発生圃場率はともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。〈±〜+〉(図2参照)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。

(2) 本圃の準備は時間に余裕をもって行い、適期に定植する。

(3) 本圃での発生を抑えるために、育苗期および定植前後の薬剤防除を確実に実施する。

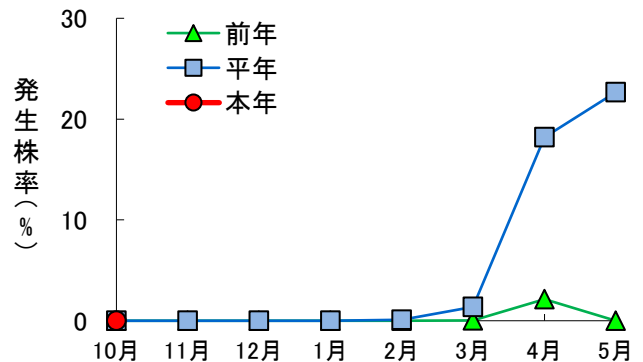


図1 タマネギでのべと病の発生推移

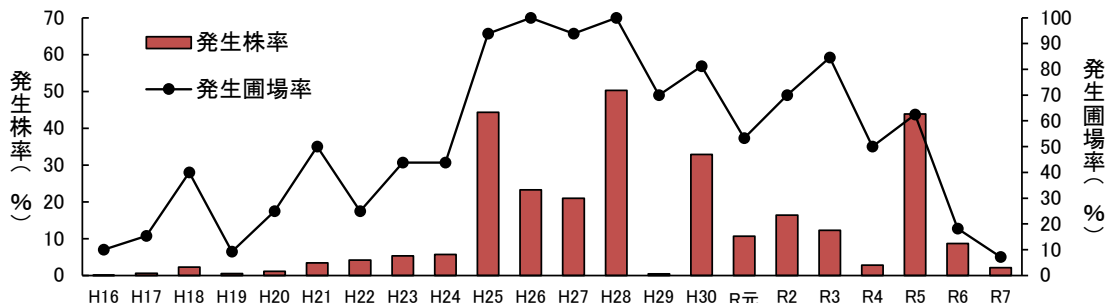


図2 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移 (4月下旬の定期調査結果)

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 11月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期から予防防除を行う。

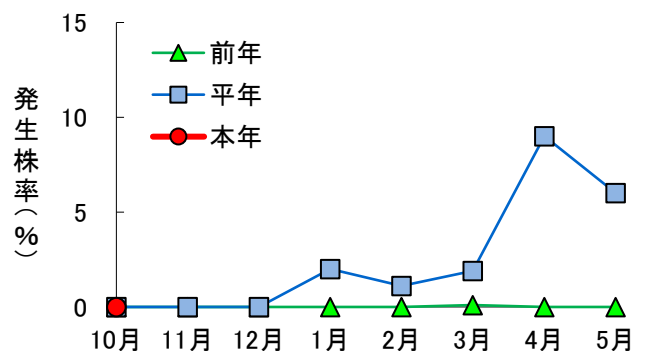


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

3. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況（図1参照）
発生株率：0%（平年0.1%、前年0%）
平年比：並（±）
 - (2) 11月の気象予報
気温は高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本圃へ持ち込まないように、苗床での防除を徹底する。

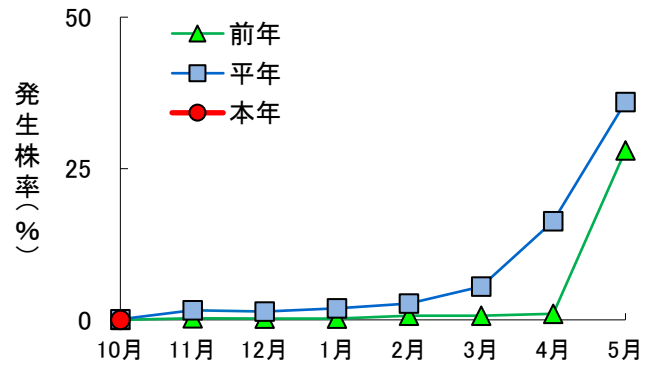


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：10 月 17～22 日

1. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年1.7%、前年0%）
平年比：やや少（－～±）
 - (2) 11月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 10～14 日間隔で定期的に薬剤防除を実施する。

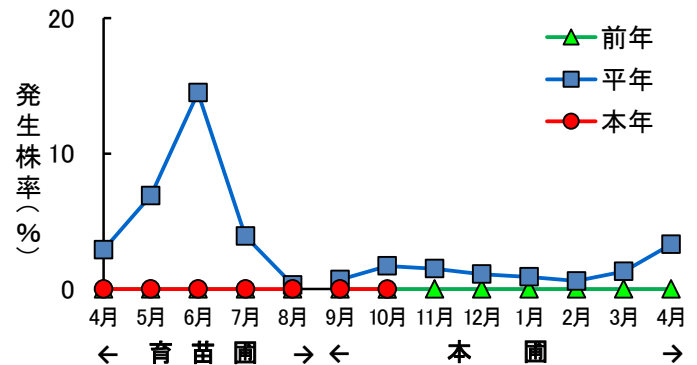


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

2. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：3.8%（平年6.7%、前年1.0%）
平年比：並（±）
 - (2) 11月の気象予報
気温は高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

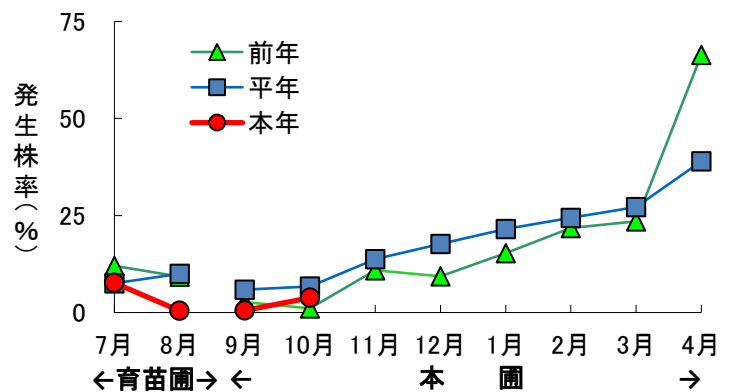


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

- (2)天敵を利用する圃場では、天敵への影響が少ない薬剤を用いてハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する。

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査4圃場、防除員4圃場

調査日：10月21日～22日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：21.9%（平年13.7%、前年23.8%）

平年比：やや多（±～+）

(2) 11月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。

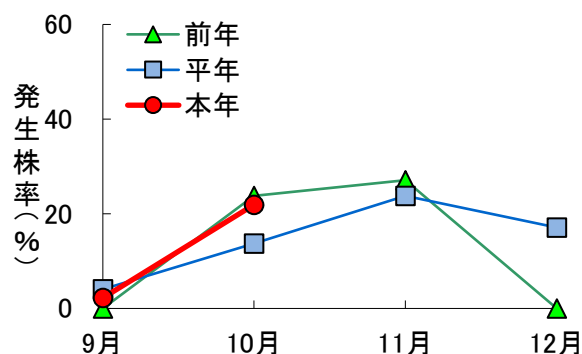


図1 キュウリベと病の発生推移

2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：51.3%（平年13.0%、前年14.4%）

平年比：多（+）

(2) 11月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- 発病が多くなってからでは防除が困難となるので、発生初期から予防散布を徹底する。
- 湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。
- 下葉の老化葉や被害葉は伝染源となるので、除去するなど圃場衛生に努める。
- 発病が多かった圃場では、使用した資材等に胞子が付着して次作の伝染源となるため、ハウス内と資材の消毒を行う。

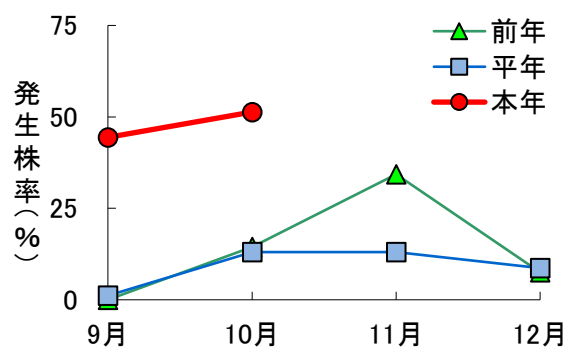


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

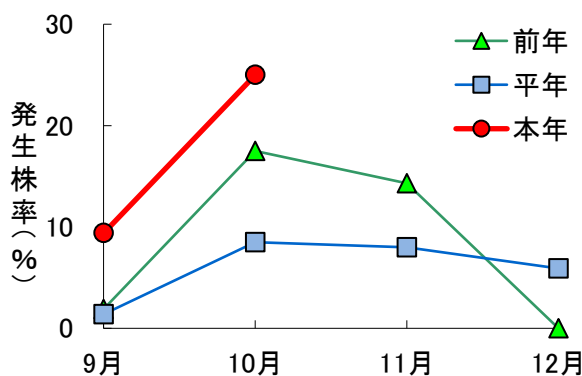


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

発生株率：25.0%（平年 8.5%、前年 17.5%）

平年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 黄化えそ病の症状（新葉の黄化・葉脈透過、葉のモザイク・えそ斑点等）が見られる株は速やかに抜き取り、圃場外に持ち出して適切に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。
- (2) 黄化えそ病が未発生の圃場においても、アザミウマ類の侵入防止対策を徹底するとともに、定期的に薬剤防除を実施する。

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：51.3%（平年 25.5%、前年 41.3%）

平年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 退緑黄化病の症状（葉脈間退緑、葉のモザイク等）が見られる株は速やかに抜き取り、圃場外に持ち出して適切に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。
- (2) 退緑黄化病が未発生の圃場においても、コナジラミ類の侵入防止対策を徹底するとともに、定期的に薬剤防除を実施する。

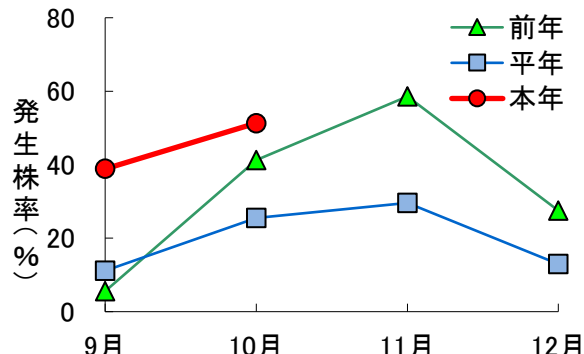


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：5 圃場、防除員 4 圃場

調査日：10 月 20～22 日

[【概要に戻る】](#)

1. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：24.4%（平年 8.2%、前年 16.5%）

平年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ウイルス病（黄化葉巻病、黄化病）の発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- (2) 施設内の侵入を防ぐため、開口部に 0.4 mm 目合い以下の防虫ネットを設置する。

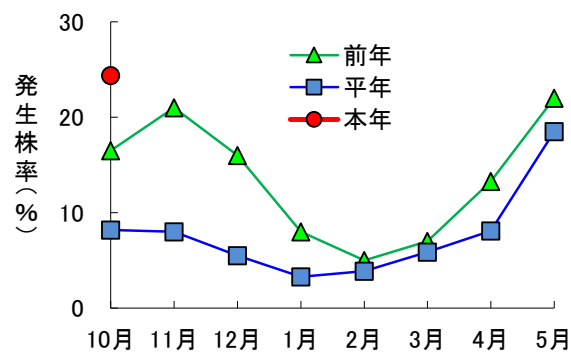


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日：10月20日～22日

1. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.3%（平年1.1%、前年0%）

平年比：並〈±〉

(2) 11月の気象予報

気温は高く、降水量は並で多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏までかかるように十分量を丁寧に散布する。

(2) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

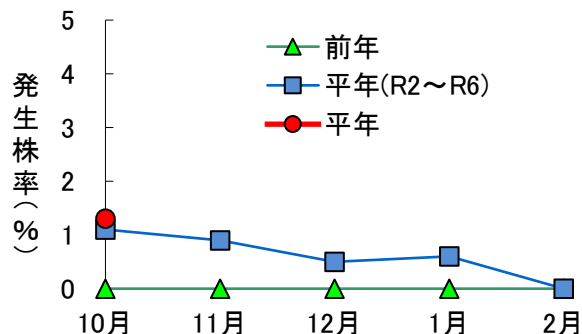


図1 キャベツでのアブラムシ類の発生推移

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場

調査日：10月20～22日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並〈±〉

(2) 11月の気象予報

降水量は並で並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。

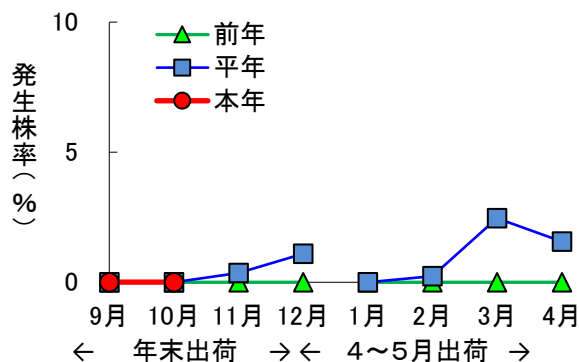


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クダアザミウマ、ミナミキロアザミウマ、ミナミキロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生株率：13.8%（平年 7.2%、前年 0%）

平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。

(2) 施設内の侵入を防止するために、開口部に 0.4 mm 目以下の防虫ネットを被覆する。

(3) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。本虫は、薬剤のかかりにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。

(4) ミナミキロアザミウマは、キクえそ病（TSWV）・茎えそ病（CSNV）のウイルスを媒介する。発生株を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫の防除を徹底する。

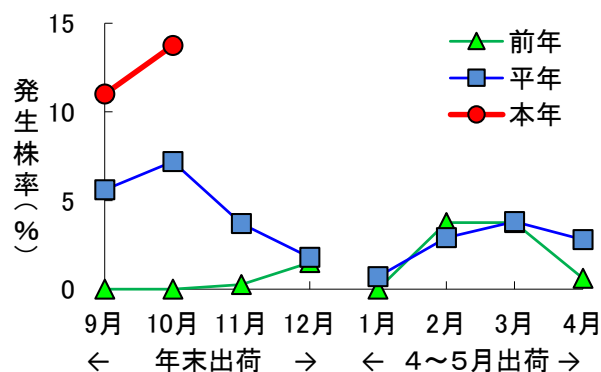


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率：13.8%（平年 7.4%、前年 0%）

平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場をよく観察し、早期発見、早期防除に努める。

(2) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

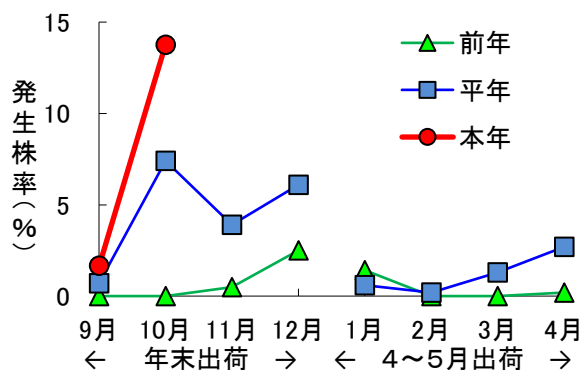


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

被害株率：0.3%（平年 1.6%、前年 3.0%）

平年比：やや少（～±）

②フェロモントラップによる誘殺数（野菜共通の項参照）

ハスモンヨトウ 平年比：並（±）

オオタバコガ 平年比：並（±）

シロイチモジヨトウ 平年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生程度は圃場ごとに異なるため、必ず圃場での発生状況を確認する。

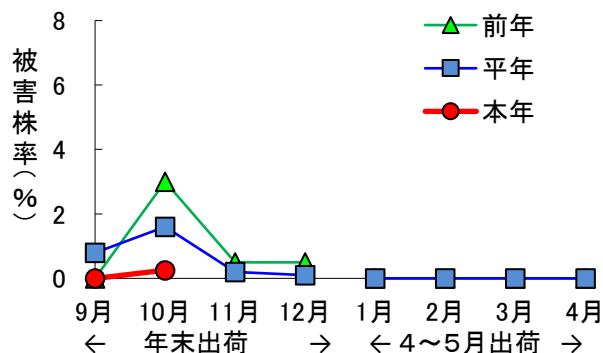


図1 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

- (2) 薬剤防除に当たっては、使用方法(収穫前日数等)を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
(3) 幼虫は、齢が進むと薬剤の防除効果が劣るため、若齢幼虫期に防除を行う。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

病虫害総合防除計画掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

防除セ QR コード*



防除計画 QR コード*

